

公開講座撰集に寄せて

湘南総合研究所所長 高 田 哲 雄

2004年の季節は御存知のように記録的な数の台風が日本列島に襲来し、そのために好天に恵まれた日は数えるほどしかありませんでしたが、公開講座が行われる日は偶然にもすべて晴天に恵まれました。それぞれの講座は次のような内容でした。

- ①10月2日（土曜）講義「広がるインターネットの世界」 宮川裕之
- ②10月16日（土曜）講義「コンピューターのしくみ」 大槻善樹
- ③10月23日（土曜）講義「インターネットのしくみ」 佐久間拓也
- ④11月6日（土曜）体験講座1: 釈氏孝浩／堀田敬介／太田信宏
- ⑤11月13日（土曜）体験講座2: 釈氏孝浩／根本俊男／太田信宏
- ⑥11月20日（土曜）講義「インターネットをめぐる事件」 飯野 守

1日目の宮川教授の話は実際にインターネットにアクセスしながらその画面を教室の大スクリーンに投影させながら行われました。インターネットは地球規模のグローバルなコミュニケーション手段であるがその歴史的な意味とは時間と空間の短縮という単純な解釈ではなく、21世紀では情報手段の大衆利用であり、個人個人誰もがマスコミ手段を得たということと同等の価値をもつもの。一部の専門家だけが独占する技術でなく、大衆が享受することのできる時代になった。それが情報化社会の現代的意義だと思うと宮川先生は説明されました。

2日目の大槻先生はごく日常的な話題から始まり、本来はテクノロジーの塊であるコンピューターのメカニズムについてご自身の趣味的な感覚も含め一般市民にとって親しみやすい導入をされました。

佐久間先生は一通りインターネットに必要な予備知識に関して説明した後、実際のネットワーク活用に必要な実践的方法についても説明されました。4日目5日目の体験講座では実際にコンピューターを前にしながらそれぞれの先生が持ち味を生かした体験講座を行いました。最初から入門講座として実行される初心者グループと、ある程度の知識はあるがインターネットなどはやったことのないグループに分かれての実践的授業となりました。まったく予備知識を持たない受講生も多く、

在学生に教える以上に先生方もエネルギーを消耗した様子です。6日目の飯野先生の授業では、インターネット利用における社会性の問題として実際に利用者にもかかわってくる大切な問題について話が進められました。実際に起きているインターネットをめぐる事件などを例にしながら、それが受講者にとっても身近な問題であることをわかりやすく説明されました。

これらの中から、お寄せ頂いた講義内容の原稿を”公開講座撰集”として載せましたので是非ご一読ください。

